

## ■ 環境衛生

管内の水道普及率は、全国、全道の普及率を上回っています。

一方、令和5年度の管内水洗化率は、92.8%で全道平均（96.5%）を下回っています。

また、令和5年度の管内のゴミの1日の一人当たりの排出量は948gで、リサイクル率は20.4%となっています。

過去3年間の傾向では、ごみの1日一人当たりの排出量は管内で令和4年度に増加したものの、令和5年度には減少に転じており、また、リサイクル率は全国、全道、管内ともに横ばいの傾向にあります。

### ◆ごみの1日一人当たりの排出量（g）

	R3年度	R4年度	R5年度
全国	890	880	851
全道	941	937	912
空知管内	966	972	948

### ◆リサイクル率（%）

	R3年度	R4年度	R5年度
全国	19.9	19.6	19.5
全道	23.5	22.9	22.8
空知管内	21.1	20.5	20.4

（出典）「一般廃棄物処理事業実態調査」（環境省）

### ◆水道普及率（%）

	R3年度	R4年度	R5年度
全国	98.2	98.3	98.2
全道	98.3	98.3	98.3
空知管内	98.7	98.7	98.7

（参考資料）「令和3年度北海道の水道」  
「令和4年度北海道の水道」  
「令和5年度北海道の水道」

## ■ 住宅

管内の令和6年度の住宅着工戸数は745戸あり、そのうち持家は424戸で借家は321戸となっています。

また、管内の公営住宅管理戸数は、令和7年3月31日現在、道営住宅1,828戸、市町営住宅13,421戸となっています。

令和6年度における公営住宅の建設実績は、市町営住宅89戸であり、地域の森林資源を活用した木造公営住宅や、子供からお年寄りまで、全ての人が安心して暮らせる住まいの実現を目指し、「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れた公営住宅の整備を進めています。

## ■ 防災

管内は、石狩川水系の上流部から下流部に位置するため、過去に大雨等による大きな災害に見舞われており、近年では平成23年、平成24年、平成28年と浸水被害が連続して発生しました。

また、令和6年に雨竜川の氾濫により浸水被害が発生しました。

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震では、三笠市・長沼町で震度5強、栗山町・由仁町・南幌町で震度5弱を観測し、重傷1名・軽傷5名、住家半壊3件・一部損壊94件が発生した他、全道域停電「ブラックアウト」により多くの道民生活に影響がでました。

令和6年度の雪による人的被害については、死者7名、重傷21名、軽傷54名となっており、発生原因は、雪下ろし・除雪が72名、落雪が9名となっています。

◆雪による被害状況（R6.11.1～R7.3.31）

発生原因内訳		
死 者	重 傷	軽 傷
7 名	21 名	54 名

発生原因内訳		
雪下ろし・除雪	落雪	その他
72 名	9 名	1 名

（危機対策室調べ）

■ 交通安全

令和 6 年における道内の交通事故の死者数は 104 人となり前年より 27 人減少し、発生件数と傷者数ともに減少しました。

管内の交通事故の死者数は 9 人となり前年より 3 人減少し、発生件数と傷者数ともに減少しました。

交通安全対策の推進に向けて、市町及び交通安全推進組織をはじめ関係機関・団体等、警察署と連携して、交通安全運動を中心に飲酒運転根絶の取組や街頭啓発等の交通安全活動を実施しています。

◆全道の交通事故発生状況

	R2	R3	R4	R5	R6
発生件数	7,898	8,304	8,457	9,082	8,743
死 者 数	144	120	115	131	104
傷 者 数	9,043	9,598	9,785	10,601	10,297

◆管内の交通事故発生状況

	R2	R3	R4	R5	R6
発生件数	315	398	415	442	385
死 者 数	8	9	11	12	9
傷 者 数	404	477	497	543	482

（北海道環境生活部「交通事故統計分析表」）

■ 道路交通

全国で最も長い直線道路を有する国道 12 号をはじめ、管内の国道、道道、市町村道の路線実延長は、令和 6 年 4 月 1 日現在で 8,215km となっており、全道の約 9.1%を占めています。

管内の主要事業は、恵庭市と栗山町を結ぶ恵庭栗山線の馬追橋において、老朽化に伴う橋梁の架け替えを実施しています。令和 7 年度は橋梁の上部工を進めており、早期の新橋供用開始に向け、引き続き工事を推進します。

なお、平成 22 年より事業を進めてきた美唄富良野線の東美唄・芦別間約 15.5km の道路整備については、令和 6 年 8 月 26 日に開通しました。開通により南空知地域と上川南部地域を短絡する新たなルートが形成され、観光地へのアクセスの向上や物流ルートの強化などが期待されています。